

第4回鹿野地域振興会議議事概要

日 時：令和元年8月28日（水） 午後1時30分～午後3時30分

場 所：鹿野町総合支所2階 会議室

【出席委員】

高田守、小川義和、兼平恵、砂川重雄、山本章、筒井洋平、池原美穂、向井健太郎、田中文字子、藤原真道
以上10名出席（敬称略）

【欠席委員】

山下直司、佐々木千代子（敬称略）

【事務局】

徳岡支所長、乾副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局鹿野町分室長）、岡田産業建設課長、三谷市民福祉課長、小林地域振興課長補佐

【傍聴者】

なし

【日 程】

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報 告

（1）行事予定 （資料ダウンロード）

（2）8月22日開催の地域振興会議会長会報告について

（3）気高循環バスの今後の運行について （資料ダウンロード）

（4）令和2年度桜まつり検討会について （資料ダウンロード）

4 議 題

(1) 新市域振興ビジョンの平成30年度実績及び令和元年度計画について
(資料ダウンロード)

(2) 津和野町交流の令和元年度訪問内容と今後の在り方について
(資料ダウンロード)

(3) 令和2年度先進地視察について
(H30は、日南町のコンパクトビレッジ、公共交通、移住定住施策を視察)

(4) その他

5 その他、情報提供 (資料ダウンロード)

6 閉 会

◎議事概要

報告事項

(1) 行事予定

事務局より資料1に基づき説明

(2) 8月22日開催の地域振興会議会長会報告について

会長より口頭で概要説明

(3) 気高循環バスの今後の運行について

事務局より資料2に基づき説明

【委員】循環バスの運行ルート、料金などの制度を知らない方もあるので再度の周知が必要である。ダイヤの見直しに当たっては、JRとの接続、アンケートを取るなどして徹底して行えば少しは利用が増えるのではないかと。

運行経費と収入を見ると大きな赤字が出ているが、継続していけるのか。

【事務局】ダイヤ見直しなどによる乗車人数の増加対策、費用対効果のある手法の検討などが必要です。

【委員】翼運輸は今後もずっと公共交通に携わってもらえるのか。

【事務局】長期的に携わっていただけると伺っています。

(4) 令和2年度桜まつり検討会について

事務局より資料3に基づき説明

【委員】マスコミなどの効果もあり今年はすごい人出だったが、渋滞などが発生し居住者にとっては迷惑した部分もある。来年は祭と花火があるため、スタッフの体制や駐車場対応を含め、十分に検討して良い方向で開催してほしい。

【委員】来町者が増えていいことばかりでなく、悲鳴を上げているところもある。鹿野の方は、良い事例が分からなく、奉仕の精神のみで取り組んでいるところがあるので、検討するにあたっては、効果を上げている地域を参考に見直し検討を進めてほしい。

【委員】どのような日程になりそうか。祭と花火大会のスタッフが重複しており同日開催は無理がある。

【事務局】まだ決まっていません。会議の中では、祭と花火を別日程とする意見は出ています。

【委員】都市部では警備スタッフの不足から、花火大会が中止とするところもあ

る。地元のボランティアスタッフのみで充分か。

【委員】祭と花火が同日だと不足する。そのことも含めて考えてほしい。

【委員】城下町、旧小学校校庭への進入を抑止した方が良い。花火も祭とは別日とした方が予備日を設けることができるし、開始時間も自由に設定できる。

【事務局】協議の進捗に合わせ、決定前に報告します。

議 題

(1) 新市域振興ビジョンの平成30年度実績及び令和元年度計画について 事務局より資料4に基づき説明

○そば栽培について

【委員】収量が少なく鹿野産が足りていない。気候変動に合わせて品種を見直した方が、収量が上がるのではないか。

【委員】数年栽培すれば鹿野産といえるはずなので、大学等と連携して売っていた方が良い。乾麺も県外産・県外製造なので、せめて原材料に鹿野産を入れないと売り出せない。

【委員】そばによる収入が減少し魅力がないため、農家の生産意欲が減退し取り組まなくなっている。制度の見直しが必要になっている。

【委員】稲とそばの刈り取りが同時期のため、人員不足などから適正な刈り取り時期を逃している。ほ場も点在しており、作業の効率化も必要である。

【委員】地域によっては、もうからなくても鹿野の特産だからと頑張っておられる。維持したいが種が高額と伺っている。鹿野ブランドの品種を開発し安価にならないか。

【委員】法律面もクリアしないといけないので、多方面での研究が必要となる。

【委員】出雲では海外産のものを改良している。この土地にあったものをさがすことも一つの方策である。

【委員】以前、他品種の研究をしていたと思うがどうか。

【事務局】試験栽培の結果良い品種があっても種の数量が確保できないなどの課題があり、改善に至っていません。

【委員】すぐに改善できないが、長期展望に立って鹿野でのそば栽培に取り組んでいかなければならない。

○しょうがについて

【委員】鹿野産しょうがの品種はどのようなものか。味は良いらしいが、形が悪く扱いづらいので評判が悪い。

【委員】日光、瑞穂と協力できれば生産量もブランド力も上がり、よいと思うが難しいと聞いている。

【委員】ビールなど加工品製造も数量確保が課題となっている。種の確保が重要となってくる。

【事務局】種は生産組合が確保し生産者に配っているので確保できているようです。生産者の確保も課題となっています。

(2) 津和野町交流の令和元年度訪問内容と今後の在り方について

事務局より資料5に基づき説明

【委員】訪問目的も考えるのか。

【事務局】テーマを持ちながら交流していますので、考える必要があります。

【委員】テーマが煮詰まれば訪問者の選定につながっていくのか。

【事務局】そうなります。

【委員】「亀井検定」は難しいのではないか。青谷、気高も亀井さんに縁があるので、西地域に対象を広げることは面白い取り組みができると思う。

【委員】お互いに亀井さんのルーツを探すというのはどうか。

【事務局】津和野町も合併があり、小学生の交流が難しくなった経緯もある。しかし、津和野というブランド力は鹿野にとっても魅力であり、歴史文化を延ばす意味でも活用すべきと考えている。

【委員】亀井さんにこだわらず、広く交流することも考えられるのではないか。

【事務局】津和野との交流は、鹿野地域限定の事業として行っています。

【委員】西地域に広げるのは有効だと思う。違った意見も出ると思う。

【事務局】他の会議でも、青谷、気高の方が亀井さんのことを認められている発言も受けています。

【委員】西地域で取組むなら鹿野だけで決められない。相手方と協議する必要がある。

【事務局】例えば、亀井さんという共通のキーワードを使い亀井検定（クイズ）作りに青谷、気高に呼びかけることで、西地域で取り組むきっかけとするのはす

ぐにできるのではないのでしょうか。

【委員】 亀井さんのもとに西地域を巻きこむツールとして、亀井検定（クイズ）を使うということか。

【事務局】 西地域が集まるための事業手法として使えると思います。また、作成する過程で津和野のことも入れれば、現地を見に行くなどの交流もできます。現在の相互訪問は限界にきており今後の新しい取り組みにもつなげていく必要があります。

【委員】 過去に小学生が交流したときは、交流のために勉強していたのですごくよかったです。

【委員】 当時の小学生も大人になっているので、巻き込んではどうか。

【事務局】 検定づくりに子どもたちも一緒に取り組んでもらうのは良いと思います。

【委員】 将来的には広域で取り組まないと展開が難しいので、西地域を引き込むための一つの方策だと思う。

【委員】 行く時期はいつごろか。

【事務局】 まだ決まっていません。年度末まで短期間ですので検定づくりの中間で訪問することも考えられます。

【委員】 まとまっていなくても、目標に向けたお互いの意見交換ができる。

【事務局】 鹿野側としては目的をもって訪問していこうと思います。事務局で詰めていきます。

（3）令和2年度先進地視察について

【事務局】 来年度の視察先、内容について、次回までに検討をお願いします。

その他、情報提供

- 西道路開通後の鹿野地域の観光施設の入込客数及び道の駅の状況を報告
- 関係人口創出モデル事業の実施状況を報告
- 鳥取県と青山学院大学との連携協定に基づくフィールドワークの状況を報告
- 西道路の鹿野浜村インター降り口が危険であることの対応策について、一時停止喚起の看板設置を報告

閉 会